



# 浄東 土方

閑伊川紀行





山々を

駆け上る

春の息吹

閉伊川中流・夏屋川上流域

39° 42'27.2"N 141° 34'25.6"E

閉伊川下流・長沢川桜づつみ

39° 37'07.7"N 141° 54'23.0"E

たとえば鳥になって空を飛ぶ。眼下に広がるのは岩手の県土を覆う北上高地の山々だ。スケール感はず巻としか言いようがない。力いっぱい羽ばたいてぐんぐん高度を上げ、遙か空の高みに達しても、大地を覆い尽くす山々の連なりは視界の外へと広がり続ける。まさに「無数の山々がひしめく」大地である。

冬を迎えると、この山々は雪を抱き、長い眠りにつく。目覚めは遅く、里で桜が咲き始めても山々は沈黙を続ける。しかし、分水嶺の区界峠を源として、山塊を貫いて宮古湾を指す閉伊川に春が訪れると山は一変する。春は下流からはじまる。宮古で芽吹いた春はまるで遡上する鮭のように閉伊川本流へ、支流へと新しい季節を運んでいく。

その先にはあるのは躍動する春の姿だ。山肌を深く刻む谷筋から尾根へ一気に上っていく緑。春は瑞々しいまでの緑の息吹を大きく吐きながら北上高地の山々を駆け抜けていくのである。



薫風に揺れる若葉

山が嗤い

初夏を映す水面



大峠ダム・閉伊川中流域

39° 38'00.1"N 141° 32'08.8"E

盛岡と宮古を分かつ区界峠を見下ろすように立つ兜明神岳。その頂上直下、深いブナの森から湧き出し、陸中海岸・宮古湾を指すのが閉伊川だ。全長にすると約九十キロメートル、北上高地を縫って進む川沿いの風景は季節によってその印象が驚くほど異なる。とくに錦繡の秋と初夏は別格だ。どちらもピークはわずかに一週間程度。いや、もしかしたら本当の意味での最高の瞬間は数日だろうか。山肌を覆う木々が季節の色を深め、次の季節へと向かおうとする刹那の表情。容易に「自然の美」という言葉では言い表すことを躊躇うほどの多彩で繊細でかつ大胆な自然の造形と色彩が視界いっぱい展開される。

なかでも中流域の大峠ダム付近の光景は見る者の心を深く揺さぶる。ダムに集められた閉伊川の澄んだ水を山々が抱擁し、その上を青い空に浮かぶ白い雲がゆっくりと進む。初夏であればそれはまさに『山嗤う』という光景だ。春紅葉とも呼ばれる赤褐色や黄色の新芽が一齐に若葉を広げると、山はもりもりとひと回りもふた回りも盛り上がり、笑い歌うようである。山々が「初夏」という生命を得て、ひとつの大きな生き物になった。確かにそう思える瞬間である。





## 早池峰山の頂き

繰り返される

永遠の朝

閉伊川中流域・早池峰山山頂

39° 33'30.0"N 141° 29'20.0"E

標高一千九百十七メートル。

早池峰山は北上高地の中央に位置し、周囲の山々を見下ろすか

のように一際高くそびえる。

荒々しく蛇紋岩が露出したこの山を生んだのは、遡ること四

〜五億年前の古生代から始まったプレート運動とされている。

地球規模で展開された地殻のダイナミズムが現在の北上高地を生んだのである。以来、早池峰

山はこの山塊で最初に朝日を受け止めるという役割を果たしてきた。東方の海より昇ってきた

朝日の光は真っ先に、この地の最高峰である早池峰山の頂きに届くからである。

夜明け前、星空の下に黒々と広がる岩の山を登っていく。やがて東の空が白み始め、最初の

炎を思わせる金色の輝きが空全体に広がっていく。朝日が昇ってくるのはそれから。空をふた

つに割るほどの鋭い光線で早池峰の頂きを照らし出す。東方からの神々しいまでの光に守られて早池峰山はそびえている。



# 川を渡り、 山を縫って進む 絶景の鉄路



閉伊川下流域・JR 山田線

39° 35'39.3"N 141° 45'04.6E

閉伊川沿いにはふたつの陸路が走っている。一本は盛岡と宮古を結ぶ国道106号線。閉伊川を旅する上での大動脈とも呼ぶべき道である。そしてもう一本が百周年を迎えるJR山田線である。明治期に構想が始まり、大規模工事の末に運行が始まったのは大正十二年。以来、内陸と沿岸を結ぶ鉄路として沿線の暮らしを支えてきた。

車が生活の中心となったことで山田線にかつての賑わいは見られない。しかし、その名は多くの鉄道ファンを魅了し続けている。「日本最高の秘境線」「東北随一の山岳秘境線」「超絶景のローカル線」などと、ファンからの賛美の声は止まることがない。盛岡―宮古間は閉伊川と同じ約九十キロメートル。その間、途切れることなく北上高地の絶景が車窓に映し出される。それは大自然の奥懐へと入っていく神秘的な体験だ。

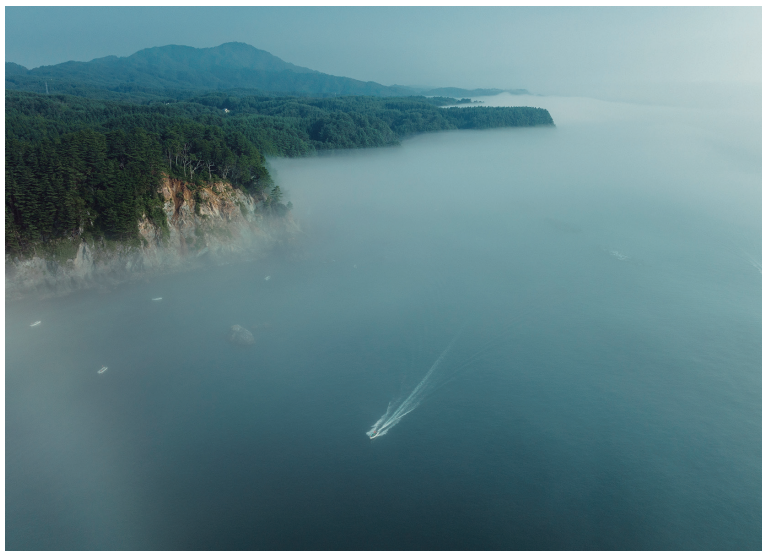
ゴトゴトと愛らしい音を山々にこだませ、今日も山田線は走っている。



やませが包む

人の営みと

豊饒の海



初夏を迎えた宮古の海は清涼な青を広げ、冬の海とは異なる穏やかな表情を見せる。しかし、「やませ」がやって来るとその世界は一変する。海原を滑るようにして音もなくやって来たやませはあっという間に宮古の街全体を冷たく湿った雲ですっぽりと閉じ込めてしまう。

北海道沖で発達したオホーツク海高気圧が作り出す冷たく湿った風が海面温度の異なる親潮と黒潮の境目を通り、三陸海岸に吹き付ける。これがやませのメカニズムだが、やませに包まれ、驟雨が降り始めたと思えば、一瞬にして雲が消えて晴れ上がることもあれば、視界を遮

る深い濃霧に数日間に渡って閉ざされることもある。こうした現象が天気予報を無視して発生するのだから、体感としてのやませは極めて神秘的だ。

歴史を紐解くと、東北地方の飢饉の多くはやませが原因だった。やませが多く発生する夏は冷夏となって農作物から稔りを奪った。しかし、その一方で黒潮と親潮がぶつかる三陸の海域はプランクトンを大量に生み出し、世界有数の漁場を作り出した。つまり、やませは三陸の豊かさの象徴でもある。今日もやませが吹く海に向かって漁船が出航している。漁師たちは深い霧の先に豊饒の海を見つける。

## 陸中海岸・重茂半島

39° 34'40.0"N 142° 01'39.9"E





夏の夕暮れに

懐かしい

ご先祖の声を聞く



閉伊川下流域・宮古市街

39° 38'34.5"N 141° 57'07.2"E

宮古の八月は「松明かし」から始まる。夕暮れの訪れを合図に家の前に出て来た人々は小さな松の木片に火をつける。めらめらと赤い炎を上げて燃える松と通りにたゆたう白い煙。ここに加わるのが色とりどりの火花。子供たちが手にした火花が松の炎とともに夏の宮古の夜空を照らし、先祖の霊を迎える。

盆行事として迎え火・送り火を行う地域は全国各地にあるが、宮古の松明かしは独特で、八月の頭から終わりまで繰り返し（合計にすると八回ほど）行われる。また、火花が付き物なのも宮古ならではである。この風習が少なくとも江戸時代から連綿と受け継がれてきた。さらには盆を迎えると、青い実のついた栗の枝、果物、菓子、鏡天、お茶などで賑やかに飾り付けた盆棚を用意し、十三日の夕方には先祖を迎えるために提灯を手に皆で菩提寺へと向かう。そして、このお盆以降も松明かしが続くのである。火花や盆棚の色彩の鮮やかさからとこか陽気にも見える宮古の盆行事だが、先祖や亡き人への深い思慕が人々の胸に宿っているのである。

松明かしの最後は八月三十一日。この火が静かに消えると、宮古の短い夏は終わり、秋を深めていく。





海から届く

夜明けの光

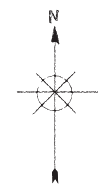
浄土の一日を開く

青い海に立ち並ぶ、鋭く尖った白い流紋岩とその頭を彩る緑の松。この世の浄土と讃えられてきた景色が一番輝く時は、東の空より届く朝日に照らされたときだ。水平線から陽が昇る刹那、眩いほどの金色に海が輝き、奇岩たちが徐々に光をまとい始める姿は、仏教の世界で薬師如来が住むとされてきた「東方浄瑠璃浄土」の名を借りてもなお誇れるほどの美しさである。

今日も長く海に突き出した重茂半島の先端から朝日が昇り、一閃の光が奇岩に届けられた。気がつくとも、海原の果てから黄金の道が奇岩へと伸びている。浄土の美、ここにありである。

浄土ヶ浜・三陸海岸  
39° 39'10.9"N 141° 58'48.8"E





## 盛岡から宮古へ、東方浄土への旅



### ① 盛岡城跡公園

盛岡のランドマークで日本百名城のひとつ。見所は桜と紅葉で時期になると賑わう ●盛岡市内丸 1-1-37



### ② 石割桜

巨石の間を割って岩手に春を告げる樹齢300年を越すエドヒガンザクラ。国の天然記念物 ●盛岡市内丸 9-1



### ③ 米内浄水場

県内有数の枝垂れ桜の花見スポット。満開の時期には、春爛漫、夢うつつの世界を堪能できる ●盛岡市上米内中居 49



### ④ 築川ダム

北上の支流築川の中部に2021年に完成した治水目的の重力式コンクリートダム。区界峠が分水嶺となっている



### ⑤ 兜明神岳

閉伊川紀行の玄関口、区界峠にそびえる標高1,005mの山。その頂には蛇紋岩が露出し、北上高地の歴史を伝える



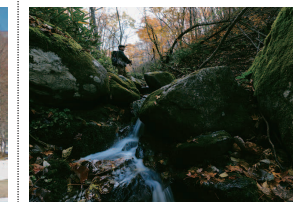
### ⑥ 道の駅 区界高原 ビーフビレッジ区界

区界峠の休憩スポット。2021年3月リニューアルオープン ●宮古市区界第2地宮古市区界 2-434-2



### ⑦ 区界高原 ウォーキングセンター

兜明神岳周辺のトレイルの情報を提供 ●宮古市区界第2地 割 111-54 ●0193-77-2216



### ⑧ 閉伊川源流

閉伊川の源流部は、兜明神岳の中腹付近一帯から湧き出す水とされている。周囲には美しい落葉広葉樹の森が広がる





**9 大峠ダム**  
閉伊川沿いのビュースポット。ダムを囲む山並みが美しく、新緑と紅葉時期がおすすめ。また山田線のビュースポット



**13 早池峰山**  
標高1,917m、北上高地の最高峰にして日本百名山のひとつ。ハヤチネウススキソウをはじめ、固有種が多い山でも有名

**17 道の駅 やまびこ館 閉伊の郷かわい**  
閉伊川の旅の中継地。土地の逸品が揃う●宮古市川内 8-2 ●0193-85-5011



**10 薬師塗漆工芸館**  
漆工芸の展示のほか、螺鈿技法が体験できる施設。やまびこ館の敷地内に併設●宮古市川内 8-8-1 ●0193-75-2351



**14 薬師川渓流の古生界**  
三陸ジオサイトのひとつ。4億年前に遡る早池峰構造帯と南部北上帯の地層を前に大地の躍動を感じられる場所

**18 タイマグラキャンプ場**  
早池峰山麓の美しいキャンプ場。目の前には薬師川も流れる●宮古市江繋第5地割3番地3 ●0193-78-2031



**11 平片の滝**  
宮古街道の開削に尽力した牧庵鞭牛が修行したと伝えられる滝。周囲は深い森でどこか神秘的な気配が漂う



**15 西塔幸子記念館**  
岩手を代表する歌人・西塔幸子の貴重な遺稿などを展示●宮古市江繋第9地割43 ●0193-78-2705

**19 横沢温泉「静峰苑」**  
大正時代に発見されて以来、地元の人たちに愛される冷泉●宮古市鈴久名第4地割5-4 ●0193-74-2444



**12 岩泉線レールバイク**  
廃線となった岩泉線を自転車駆動で走るアクティビティが楽しめる●宮古市和井内 21-1-3 ●080-5564-2310



**16 北上山地民俗資料館**  
山に抱かれた北上高地の暮らしや林業をはじめとする生業を伝える資料館●宮古市川井第2地割 187-1 ●0193-76-2167

**20 里の駅 おぐに**  
小学校校舎を改装した産直施設。季節の農産物ほか土地の味を楽しめる●宮古市小国 9-81-1 ●0193-77-5198





**21 源兵衛平高原キャンプ場**  
北上山地の真ただ中にあるキャンプ場。大自然しかないのが魅力●宮古市刈屋 9-98-6



**22 うみどり公園 (旧市役所跡地)**  
すべての人が楽しめるインクルーシブ遊具を備えた公園 ●宮古市新川町 2-1



**23 青の洞窟**  
さっぱ船で行く神秘の世界。洞窟内に広がるのは、エメラルドグリーンの世界。三陸の海のみしさは訪れた人の胸を打つ



**24 潮吹穴**  
太平洋に面した海食洞から噴き出す海水は高さ 30m にも達することも。国指定天然記念物にも指定されている



**25 リバーパークにいさと**  
閉伊川を望む総合レクリエーションパーク。宿泊、キャンプなど多彩な楽しみ●宮古市茂市第 8 地割 53 ●0193-72-3800



**26 腹帯の混在岩**  
約 1 億 5000 年前に地殻の大移動で生まれた北部北上山地の大地の歴史を伝える岩石が観察できる



**27 宮古うみねこ丸**  
宮古市遊覧船「宮古うみねこ丸」は、名勝「浄土ヶ浜」や三陸ジオパークの美しい景観を巡る新しい遊覧船 ●0193-65-8856



**28 鮎ヶ崎灯台**  
本州最東端の鮎ヶ崎にある灯台。映画のモチーフになったことでも知られる。徒歩でのみアクセス可能なプチ秘境

**29 鳥取春陽生家**  
「籠の鳥」で知られる作曲家、鳥取春陽の生家。懐メロファンにおすすめ●宮古市刈屋第 9 地割 74 ●0193-72-3600

**30 新里生涯学習センター 玄翁館**  
牧庵鞭牛、鳥取春陽など、郷土の偉人を伝える●宮古市茂市 5-2 ●0193-72-2019

**31 道の駅 みやこ シートピアなあと**  
特産品コーナー、レストランなど宮古の魅力が満載●宮古市臨港通 1-20 ●0193-71-3100

**32 旧たろう観光ホテル**  
3.11 の東日本大震災の記憶をつむぐ震災遺構。津波の驚異を今に伝える●宮古市田老野原 80 ●0193-77-3305



岩手県東部の大部分を占める  
北上高地。

それは青森県八戸から宮城県  
牡鹿半島に及ぶ南北約二百五十  
キロ、東西最大八十キロの紡錘型  
を成した山地である。そこには、  
古生層、中生層からなる標高約  
十メートルの山々が、無数に  
ひしめく。

この山塊を押し分け、谷を刻  
みながら流れるのが岩手を代表  
する河川・閉伊川である。

盛岡の東、区界高原に源流を持  
ち、約百キロの旅を経て陸中宮  
古へと注ぐこの川は、長い歴史  
のなかで人の暮らしに寄り添っ  
てきた。それは二十世紀を迎  
えた今も変わることがない。と  
きに激しく飛沫をあげ、ときに  
滔々と流れる水脈を辿り、風土を  
感じながら東へ東へと向かう旅。


その先で待つのは、「さながら極  
楽浄土のごとし」と謳われた現  
世の極楽である。

遙か東方で待つ極楽の浜へ、旅  
立ちのとき。

# 東方 浄土







遙か東方へと続く水脈みづなの旅路。  
果てなき道を辿った先は、  
さながら極楽浄土のごとし

発行：宮古商工会議所  
027-0074 岩手県宮古市保久田7番25号  
TEL: 0193-62-3233 FAX: 0193-63-6131

当事業は「東北復興道路～道・絆プロジェクト」の支援を受け実施しております

**東北** 復興道路 ～道・絆プロジェクト～